
報告者名	岡山 卓矢	被調査者生年	1959年(男)
調査者名	岡山 卓矢	被調査者属性	旧釜谷集落住民(V-1の話者)
補助調査者	土佐美菜実		

津波被害および大川小来訪者について

大川小学校のグラウンドを囲む山の斜面と、三角地帯前の斜面付近に同校遺族達や一部ボランティアの手も借りて花を植えている。菜の花・勿忘草・朝顔・日々草など。また個人でホウキ草を植えた人も。同校の写真を撮っていく人らが大勢いるが、複雑な気分である。地域の人に来るならいいが、野次馬はこなくていい。そっとしておいて欲しい人が随分いると思う。ここへ来る人のところへ寄って行くと、大体言ってくることは決まっている。「子供は何人亡くなったんでしょうね…」「山はすぐそこなのに…」である。写真を撮って子供の話をして彼らは帰るが、他の死んだ爺婆はいいのだろうか。親であればそう思うかもしれないが、ここには親兄弟を亡くした人も大勢いる。

話者はじめ遺体探しに通う人達は、10~11時くらいにここへ来て、水没した辺りを探し、ここで線香をあげて帰るということを繰り返している。話者はハンマー・鎌・熊手2種類など、遺体探し道具を数種類、常に車に積んでいる。線香の燃えさしを片付けるのはそうした人達の仕事になっている。特に土日は観光客が多く、線香が山盛りになったり台から落としていく人も増える。特にバスが1台来れば、それだけでかなり灰がうすたかく積もる。それで一度祭壇の上が焼けてしまったことがある。そこでまめに火事の無いよう気をつけて見るようにしている。また他所から来た人用に、新たに線香を上げる台を設置した。学校に近いこれまでの祭壇は地元の人を使い、別に祭壇を作ることで燃え移りなどが無いように。備品庫を開けて勝手に線香を使うやつも多い。一度は観光バスが来て、ガイドが開けて客達に使わせていた。

通りの北上川側は工事車両がいつもとまっているが、これはしょうがない。観光客もそちら側にあわせる分にはしょうがない。ただ、山側の誰も駐車しない所へわざわざとめていく者がいる。ここらは、人の敷地なのだから、勝手にとめないで欲しいが。

野次馬が帰ると線香の灰が落とされ、ポヤも出ている、このことは書いておいてほしい。ここは見世物でない。観光地としてやっていくことを決めた志津川とは違う。ここには金を落とせる店は無い。置いて行っていいのはせ



写真1 大川小学校の周囲に植えられた花

いぜい花くらいか。わざわざ線香をあげに来てくれるのはありがたいが、限度がある。先日来たバスは、最後のやつで灰が崩れ「こぼれちゃったあ」などと言ってそのまま直しもせず帰っていった。

ここには住む人が居なくなったのに、堤防を高くし、崖くずれ防止フェンスがせっせと修繕されている。あまり言っても仕方ないが、今こうして遺体探しをしている人達にその金を使ってくれ。重機が引き上げられ、自前で機械を用意して子供を捜している人も居る。昭和の津波、チリ津波では川に多少波が入ってたがたぶととした程度だった。特にチリ津波のときは川を見に行っただが、見ていて変化は分からなかった。長面はいくらか変化が見えたそうだが。今回の津波では釜谷の人口の約4割が死に、特に釜谷に居て津波にあった人は8~9割が死んだ。地域の大人はしょうがないが、子供は、その先生がどうにか出来たのでないか。震災後に状況の検証があったが、周囲の人らが安心してたから先生達もそうしたとの話になった。でも小学生の子を持つ親はそうは割り切れないだろう。以前、保護者の人に謝ったことがある。するとその人は、それはいい、釜谷でなくて先生に預けたんだからと言ってくれた。